

環境と健康に関する市民講演会

“これまでの成果と今後の展望～WHO研究協力センターとしての役割～”



北海道大学
サステナビリティ・ウィーク2017
Hokkaido University Sustainability Weeks 2017

開催日時 2017年11月20日(月) 13:30～16:00

主催 環境健康科学研究教育センター

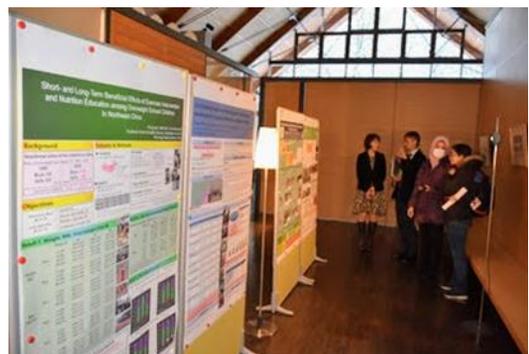
会場 遠友学舎 談話ラウンジ

サステナビリティ・ウィーク2017のテーマである『世界の課題解決に貢献する北海道大学へ』のもと、本学がWHO（世界保健機関）との連携を通じて行っている活動を紹介する4つの講演を行いました。まず、『西太平洋地域におけるWHOとSDGs達成のためのWHO研究協力センター（WHOCC）との将来のパートナーシップ』という題目で、西太平洋地域における生活環境、特に子どもの健康に関する問題およびSustainable Development Goals（SDGs）達成に向けた取組みをRok Ho Kim博士（WHO 西太平洋地域オフィス、録画ビデオ）から、次に『環境化学物質による健康影響：研究からWHOCC活動へ』と題して、本センターが長年実施をしている出生コーホート研究、室内空気質の研究結果、およびWHOCCとしての今後の活動について、荒木敦子准教授（本センター）から紹介がありました。続いて『北海道大学人獣共通感染症リサーチセンターのWHOCCとしての活動』と題し、鳥インフルエンザの拡散を防ぐ上での実践例について、本学人獣共通感染症リサーチセンター統括の喜田宏特別招へい教授が講演を行い、「One World, One Health」というコンセプトに基づき、人獣共通感染症の取組みの紹介がされました。最後に『北海道大学におけるJICAとの連携協力～これまでの活動事例と今後～』と題し、日本が行っている国際開発協力具体例の紹介や、本学の取組みについて、本学事務局国際部の高野剛氏より、幅広く説明をいただきました。

また、参加者の理解を助けるために、研究内容や日常の取組みについてポスター等の展示を併せて行いました。学生を中心とした多くの参加者は展示説明者と活発な質疑応答を行い、大変好評でした。全体を通して、本シンポジウムについて多くの好意的なフィードバックをいただき、本学がWHOとの連携を通じて行っている、意義ある活動に関する理解を深めていただくことができました。



集合写真



ポスター展示会場